

小児科専攻医研修カリキュラム

1. 研修目標

- ・ 小児の正常な発達を学び、一般外来、一次救急外来での診断、治療、および一般的な疾患の入院治療を行えるようになる。
- ・ 救命センターの診療を行えるようになる。
- ・ 特殊な疾患（内分泌代謝、血液腫瘍、循環器、神経）の診断、治療のための一般的な知識を見につける。
- ・ 研修1年目は一般的な手技（抹消血管確保、導尿、気管内挿管、アンビユウバッグによる呼吸補助、除細動器の使用、胃食道カテーテル挿入、胃洗浄、腰椎穿刺、骨髄穿刺、鎮静剤の使用、輸血）はすべて指導医のもとで行う。
- ・ 研修2年目以降、特殊な手技（交換輸血、静脈切開、中心静脈カテーテル挿入、心カテーテル検査）を指導医と共に行い、習得する。
- ・ 必要であれば、小児科に関連した新生児科、麻酔科での研修を3か月単位で行う。
- ・ 卒後5年目以降には小児科専門医の資格試験を受けるに足る十分な知識、手技を見につける。

2. 研修内容

(1) 1年次の研修内容

- ・ 一般外来診療、一次救急外来診療を行う（輪番日、小児救急日）。
- ・ 一般入院患者の診療を行う。
- ・ 救命センターの診療を指導医と共に行う。
- ・ 乳児健診を行い、正常発達を学ぶ。
- ・ 症例検討会（月、水、金）に参加する。
- ・ 抄読会に参加し、新しい病態を学ぶ。
- ・ 研究会での発表をする。

(2) 2年次の研修内容

- ・ 救命センターの診療を行う。
 - ・ 予防接種を行う。
 - ・ 専門外来患者の診療を学ぶ。
 - ・ 特殊な入院患者の診療を学ぶ。
- 診断の進め方（内分泌負荷試験、血液・骨髄像の見方、腹部・心臓の超

音波検査、脳波の読み方)

治療の実際(ホルモン補充療法、抗がん剤による化学療法、抗不整脈剤・
強心剤の使い方、抗けいれん剤の使い方)

- ・症例検討会、抄読会に参加する。
- ・専門の研究会で発表する。

(3) 3年次の研修内容

- ・救命センターの診療を行う。
- ・指導医のもとで造血幹細胞移植治療を学ぶ。
- ・指導医のもとで心臓カテーテル検査、インターベンションの補助をする。
- ・小児科専門医に必要な30症例をまとめる。
- ・症例報告の発表、および論文を書く。

専攻医週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	8:30 病棟検査処 置 9:30 病棟回診	8:30 同左 9:00 外来診療 神経外来	8:30 同左 9:30 病棟回診	8:30 同左 9:30 病棟回診 循環器外来	8:30 同左 9:00 外来診療 血液外来 12:00 症例検討会
午後	13:30 内分泌外来 血液外来 病棟回診 17:00 症例検討会 抄読会	13:30 神経外来 予防接種 病棟回診	13:30 神経外来 病棟回診 17:00 症例検討会	13:30 循環器外来 健診 予防接種 病棟回診	13:30 循環器外来 病棟回診

- (1) 1か月に4回、1次、2次の輪番救急を24時間行う。
- (2) 1か月に8回、2次小児救急を夜間に行う。
- (3) 24時間体制の救命センターの診療を行う。